

Title	ペリクレス時代以後に於ける希臘の社会不安
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1933
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.27, No.10 (1933. 10) ,p.1479(87)- 1512(120)
JaLC DOI	10.14991/001.19331001-0087
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19331001-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

川邊郡の一町村當り平均は十九人弱に過ぎないが、武庫郡に至つては(しかも之れは同郡に所在する西宮市を含めてゐない)、一町村當りの平均九人弱(約一〇〇人)を算してゐる。

茲に驚異すべき数字が二つある、一つは武庫郡の一五八三と云ふ總數、他の一つは精道村の五四六と云ふ数字である。一郡として一五〇〇人を越ゆるものは、他になく、鎌倉郡にして五七六に過ぎない、他は推して知るべしである(一町村にして五〇〇を越ゆるもの、又他に類例を見ない、關東に於ける代表的な、知識階級の住宅地鎌倉町にしても四三四に過ぎない。「蘆屋」の名が都會人の耳に眼に非常に親しい理由がこゝに明瞭にされるではないか。阪神風景が大阪都市風景を物語る有力な一情景でなければならぬ理由も之れで判明する。

しかし既に述べた様に是等の事情に就いて目下詳細に物語る餘猶と用意とを缺くが故に、關西については僅かに大阪を中心とした數字を示して、その輪廓をしのばしむるに過ぎない。それ以上の仕事は他日又は他の適任者を俟たう。

(昭和八年初秋)

ペリクレス時代以後に於ける

希臘の社會不安

高橋 誠 一 郎

希臘に於いては氏族の所領を繞りて發生せる村落共同体、即ち *κοινον* は素と孤立獨立の小邦を形成せるものなり。然れども、或ひは一地方の全住民が同一の祭日に同一の聖所に集會する宗教上の理由に基き、或ひは本來自足的なりし村落が餘剩を齎して其の缺ける所のものと交換するに至れる際に生ずる經濟的理由に據り、或ひは諸村落が共同の敵を撃退するが爲めに一時結合する際に起る軍事的理由の爲めに、隣接諸村落は最初の聯合を形成するなり。之れをアッチカに觀るに、其の諸村落中、或るものは必然卓越せる地位を占めざるを得ず。岸石多き丘上に地位を占め、壘壁を以つて圍繞せられたるポリスは其の軍事上の要害に由りて住民を吸収せり。斯くて村落の舊聯合よりも更らに廣大なる諸集團を支配することを得る最初の都市的結合は生ずるなり。最後に總べての集團が同一の首府を承認するに及んで統一は完成す。諸村落は依然其の住民を有せりと雖も、而も最早國家たることなきに至れり。

ペリクレス時代以後に於ける希臘の社會不安

八七 (一四七九)

アッチカの住民は雅典の市民と爲れり。(A. Jardé, The Formation of the Greek People, 1926, pp. 158-160.)
都市が政治的統一を遂げ得たる時、其の住民の諸部分は、親密なる結合を遂ぐることを能はずして、是れ等の諸部分はその生活方法並びに其の法律的状态の兩者に由りて、猶ほ別個の階級を形成せり。素と都市は司祭、判官並びに元師たる王の支配下に在りしも、而も彼れの參議會及び法廷を構成せるエウパトリダエは因襲的慣習の名に於いて彼れの絶對權を制限し、而して王政は遂に貴族政治に其の地位を譲らざるを得ざりき。エウパトリダエは嘗だに土地の大部分を保有せるのみならず、彼れ等の援助を求めざるを得ざりし小農民をして最悲惨なる状態に陥らしめたり。エウパトリダエの政治的及び經濟的壓制の下に、ラコニアのヘロトタエ(前史二二六―七頁參照)に比するも尙ほ一層憐む可き隷農階級がアッチカに於いて構成せらる可きの觀ありき。(ibid., pp. 160-1.)

然れども、爰に海岸の人民は干渉を試むるに至れり。所謂「海岸黨」(Ἰθακῶν)中には富裕なる人々存し、而して是れ等の富者は自から政治に參與せんことを要求せり。彼れ等は、恰も土地的富がエウパトリダエに與へたるに等しき政治的特權を、彼れ等の動産的富が彼れ等に與ふ可きものと思惟せり。彼れ等は都邑及び地方の賃銀労働者、即ちテテス(θητες)の支持を受けたり。斯くて雅典の政治的發達は工業家及び商業家によつて準備せられたり。而して雅典史の全般を通じて、商工業の進歩と民主政治の進歩との間には深き關係あるを見る可し。民主政治に向つて進む第一の階段はソロンと共に通過せられたり。彼れによつて制定せられたる新憲法の精神は富を以つて家系に代へて參政權の基礎たらしめんとするに在り。あらゆる雅典人は其の富の程度を増加するに由りて、より高き身分に昇ることを得可し。アンテミオンなる人は、彼れがテテス階級よりヒベイス(Ἰβητικῶν)階級に昇れることを神々に感謝するが爲めに、アクロポリスに馬の像を奉納せり。(Arist., Ath. Pol., 7.)

ペイストラトスの僭主政治の下に於いて小財産は發達せり。彼れは絶對權を有せりと雖も、而も法律的状态を尊重し、暴君たるよりも寧ろ多く市民として支配せり。(ibid., 14. 3; 16. 2.) 然れども僭主政治は舊時の貴族政治と未だ成熟せざる民主政治との間の過渡的状态に過ぎず。經濟的進歩は庶民階級を増加せしめ、而して僭主政治は終に陳套なる政體と看做さるゝに至り、臆がてクレイステネスの改革を誘致せり。クレイステネスの改革は氏族の成員を分散せしめて、舊家族組織の倒壊を完成し、總べての雅典人を混合して新たなる排列を行はしめ、而して雅典の民主政治に新生涯を開始せしめたり。波斯戰役以後に於いて、海上的要素並びに之れと共に商工的要素は優勢と爲り、政治的重力を中心は五百人院より民會に移り、而して民會は全然晒布屋、靴屋、大工、銅鍛冶、海商に従事する者若しくは「市場に於いて交換を行ひ、彼れ等が安く買入れて、高く賣捌き得可き物に就いて思考する者」より構成せらるゝに至れり。(Xenophon, Mem., III. vii. 6.) 洵にソクラテスの云へるが如く、民主政治(δημοκρατία)の何たるかを知らんとする者は「民」(δῆμος)の何たるかを知らざる可らず。而して「民」は實に市民中の貧民階級たるなり。(ibid., IV. vi. 37.) 紀元前四百四十四年より同四百三十一年に互りて雅典を支配せるペリクレスは富者をして國家の經費を分擔せしめ、又クレルキア(κλυρῳγία)の建設及び大工事の遂行に依りて貧民の爲めに仕事と生計とを確保して國內の平和を維持せり。

ペリクレスの見解は狭小なる都市的構造を越えて遠く進めり。雅典が總べての希臘人民と親密なりし際に（恐らくは紀元前四百四十八年の交）、ペリクレスは歐亞の全希臘都市に向つて代表者を雅典に派遣せんことを求め、波斯人によりて破壊せられたる聖殿を復興し、戦役中諸神に對して行へる誓約を履行するが爲めに必要な處置を議決せんとせり。加之、此の會議は航海の安全及び諸海の平穩を確保するの手段を討議す可きものなり。然れども彼れの計畫は遂に希臘諸市の嫉妬に由りて成功を見ることなくして終れり。（Plutarch, Pericles, 17; Jardé, op. cit., pp. 286-8.）ペリクレス曾つて曰く、「我れ等の都市の偉大は陸續と全世界の産物を吸引す」と。雅典を中心として世界的市場を確立せんとする雄大なる夢想は殆んど現實化せり。一時は如何なる交易と雖も雅典の承認なくしては行はるゝことなかりき。而して雅典は同國が政治的霸權の地位より降りたる時に於いてすら、其の商業上の至上權を喪失することなかりき。手段は異なるも、結果は依然として變ずることなかりき。既に壓制に依りて強要し得ざるに至りたる所のものは、説得に依りて取得せられたり。雅典人は條約に由りて特權と免除とを獲得し、是れに由りて市場の支配者たる地位を持続せり。精練せられたる趣味、正規的にして誠實なる貨幣の發行、既得の富、有力なる銀行組織、並びに猶ほ世界最良のものたりし艦隊は爾餘のものを爲せり。（Gustave Glotz, Ancient Greece at Work, 1926, pp. 314-5.）

世界的市場の建設は猶ほ幾多の困難に遭遇せざるを得ざりしと雖も、而も異邦人に對する昔日の憎惡の遺風を廢

止し、自治を求むる根強き欲情を征服し、人及び物が自由に往來するを妨ぐる總べての障害物を倒壊するが爲めに既に試みられたる手段は一段の進歩を見たり。非市民の状態を引き上げたる特權は曾だに其の數を増加せるのみならず、又、一層確定的のものたらしめられたり。國を異にせる人々の間に於ける商關係は、所謂シムボラ(συμβολή)に依りて容易と爲れり。シムボラは其の相互の臣民の間に生じたる訴訟事件に就きて手續を決定する兩國間の條約なり。斯くの如き協約の普通の條規は外國の法規により裁判を受けて收訴せる當事者は自國の其れに控訴することを得、又同様に自國に於いて敗れたる當事者は彼れの相手方の國家に於ける法律に訴ふることを許さるゝに在り。企業家に契約の履行を保證し、彼れ等の爲めに領事裁判權を確保し、又一國に於いて與へられたる判決を兩國に於いて有效ならしめて共同の原則は確立せられたり。一定の外國人に對して個人々々に許容せられたる權利は、正式の條項存せざる場合に於いてすら、總べての者によつて享有せられたり。經濟的性質を有する規定は同盟諸國の決議書中に、又聯盟(συνφορέα)の協約書中に現れたり、斯くの如き規定は平和及び同盟條約中に於いて愈々大なる地位を占むるに至り、終には特殊の條約、即ち純然たる通商條約の主題と爲れり。市場を支配せる都市の商慣習は他の諸都市に於いても效力を取得し、而して國際法の一體を構成せんとするの傾向は既に現れつゝあるなり。然れども、贏ち得たる進歩は斯くの如く大なりしと雖も、通商は猶ほ未だ單一なる經濟的全體に人々を結合するに至らず。それは猶ほ未だ純然たる物質的形態に於いてすら、ヘレニズム的世界の上に放射するに至る可き人類の概念を彼れ等に提示することなかりしなり。（Glotz, op. cit., p. 316.）

ペリクレスによりて確立せられたる穩和なる民主政治は穩和なる貴族主義者を其の味方たらしめたるが、ペロポネソス戦役は兩黨派をして再び對立せしむるに至れり。民主主義者は飽くまでも海上帝國を擴張し、最後まで戦はんとするも、貴族主義者は總べての侵略及び征服政策に反對し、スパルタとの平和を回復し維持せんことを欲せり。蓋し戦役の負擔は特に富者の上に課せらるゝが故なり。

固と理論上に於いては民會は其の意の儘に私的財産を處分するを得るも、然も實際上に於いては人民の主權と個人主義との間には何等の對立なく、却つて兩者は互に相援護せり。斷じて個人をして國家全能の犠牲たらしむるなく、民主政治は國家の全能をして最大多數者の保護に資せしむると共に、他方に於いては出來得る限り損傷せらるゝ權利を少數ならしむるを以つて其の原則たらしめたり。而して富者は其の財産を國家の處置に委せんことを覺悟せり、彼れ等は「公務」の費用を負擔せり、而して彼れ等は紀元前四百二十八年に初めて徴收せられたる財産税を支拂へり。紀元前第五世紀の雅典共和政は一般的利益を個人的欲求と一致せしむるに於いて成功せり。國家の力と個人の自由とは鞏固なる均衡を維持せり。國家は市民の福利を確保するの義務を以つて其の全能の限界として承認せり。貧富の市民は彼れ等の權利が共同の效用によりて結束せられたることを認諾せり。然れども、ペリクレスが社會平和の一要素たらしめんとせる原則は煽民政治家によりて濫用せられたり。戦役は需要を増加し、資源を減少せるが故に、彼れ等は國家の豫算に應ずるが爲めに必要な財源を富者の財産に於いて看出せり。爰に於いて乎、

正規的の驅り立ては富者に對して行はれ、彼れ等は告發人によりて民衆より成れる陪審官の前に立たしめられたり。唯だ徒らに激し易きのみにして法律若しくは裁判に關する何等の能力をも有することなき者の集團たる陪審官等は常に、政敵として彼れ等に説かれたる者に罪を宣告せんとしつゝありしなり。(Jardé, op. cit., p. 301.)

海上帝國の崩壞は民主政府より其の財源を奪へり。混亂はアルキピアデス(Archibades)の陰謀を恵めり。紀元前四百十一年に於ける民主政の顛覆に際して顯著なる役割を演じたるものは寡頭政治俱樂部なり。是れ等の俱樂部はペロポネソス戦役の末期に至つて、民主政の養成せる職業的告發人(εὐκοφάρτης)、即ち所謂「刺針ある雄蜂」の攻撃に對して自己を防護せんとする富裕階級の秘密結社と爲れり。非常集會は戦役に從へる者の外、何人と雖も公務に對して支拂を受くることを廢し、政治に參與し得る者を五千人に限定し、富者によりて指導せられ、中層階級によつて援護せらるゝ貴族政府を組織せり。(Thucydides, viii. 65; Arist., Ath. Pol., 29-32.) 然れども雅典の蒙れる損害を修復し、其の海上の支配權を回復せんとする雅典の光輝ある努力と共に、舊き感情は復歸し、舊き政府は復活せしめられたり。

雅典の致命的敗北は貴族黨をして再び權力を有するに至らしめたり。最後の抵抗を試みたる民主主義は征服者によつて制壓せられたり。所謂「三十僭主」即ち三十人の貴族團體はスパルタの援護の下に雅典を統治せり。彼れ等の中、過激派はクリチアス(Kritias)の統率の下に、居留外人が民主政に依附せるが爲めに之れを處罰すると同時に、其の富を略取するの目的を以つて之れを迫害せり。テラメネス(Θηραμένης)に於いて再び其の首領を看出せる穩

和派は、居留外人に對して取られたる手段を以つて、雅典の經濟的發達を損傷するの虞れあるものと做して之れを非難せり。而も當時に於いては過激派は勝利を得て、テラメネスはクリチアスの爲めに叛逆者として求刑せられ、終に毒杯を仰がざるを得ずりき。(Xen., Hell., II. iii; Arist., Ath. Pol., 34-6.)。然れども三十僭主は其の暴虐によりて亡びたり。トラシムブ羅斯(Θρασυβρολος)に率ゝられたる民主黨は紀元前四百〇三年、寡頭政府軍を撃破し、臆がて舊憲法は復活せらるゝことゝ爲れり。(Xen., Hell., II. iv; Arist., Ath. Pol., 37-40.)。

四

都市は都市と對抗し、階級は階級と鬭争し、希臘は實に不斷の葛藤裡に置かれたり。斯くの如く分散せる破片を結合して堅實なる集團たらしめんとする幾多の企圖は行はれたるも、大膽なる帝國主義的冒險も、慎重なる聯邦同盟も共に其の成功を見ることなかりき。然れども、他の殆んど總べての地に於いては激化せられたる憎惡が貧富兩階級の手中に武器を握らしめたりと雖も、雅典に於いては、寡頭政治家對民主黨員の鬭争は同市に蓄積せられたる巨大なる富に由りて殘虐の程度を少なからしめられたり。(Glotz, op. cit., p. 317.)。紀元前第四世紀の進むに連れて戰禍の跡は次第に消滅して、雅典は經濟的にも亦回復を見たり。

集約的耕作は再びアッチカの土地に施されたり。富裕なる市民中には其の所有地に對して多く直接の注意を拂ふことなき者も存せざるに非ざりしも、而も一部の者は其の資本を投じて整然たる土壤の改良に従事せり。ラウリオンの諸鑛坑に於いては、大規模の作業は第四世紀の後半に至るまで再び開始せらるゝことなかりしも、ペンテリコ

ス(τὸ Πευρελικὸν ὄρος)の石山はアッチカの大理石に對する需要の増加に由りて有利に經營せられたり。雅典の陶器工業は漸次エトルリア及び南伊太利亞に於ける其の市場を失へりと雖も、而も南部露西亞との交易増加に由りて代償を看出せり。雅典の運輸業の復興に至りては更らに一層完全なるものあり。西方の海洋に於いては、雅典の商業はシユラクーザエ國の發達によりて妨げられたること疑ひなき所なるが、東方の海洋に於いては、アッチカの商船は其の昔日の地位を回復せり。雅典とフェニキアとの間の交通は増加し、北エーゲ海岸に於ける活潑なる通商は再び開始せられたり。然れども、是れ等のものに比して遙かに大なる利益を與へたるものは黒海の北岸に沿へる雅典通商の膨脹なり。キンメリオス・ボスボロス(Kimelios Bosporos)のスパルタッコス王統は、紀元前第五世紀末に及んで、パンチカパエオン(Παντικαπαιον)海峡の兩側に於ける希臘諸都市並びに隣接の香地を結合して廣大なる領域を形成し、そは直ちに希臘世界に於ける小麦生産の主たる中心地の一と爲れり。スパルタッコス一世の子にして、雅典と親善なる關係を結べるサチュロス(Σατύρος)一世の治世に於いて、雅典人はタウリカ半島の諸港に於ける船積の優先權及び常例の輸出税免除を得、而してレウコン(Λεύκων)の治世に於いて彼れ等の特權は確認せられ、雅典人は之れに酬ゆるが爲めに彼れ及び其の子に雅典の市民權を與へたり。(Diod., xiv. 93.)。斯くて重要な穀物交易は主たる輸出の中心たるテオドシアとピラエウス港との間に發生せり。吾人が本誌前號に於いて述べたるが如く、アッチカの法律がピラエウス港に入荷せる小麦の中、其の三分の一の再輸出を許可せるに徴して、雅典の船長等は這般の許可を利用してエーゲ海地方の諸輸入都市と一般穀物交易を行へることを知るを得可し。

斯くの如き商業の復活に次いで生じたる貨幣に對する需要の増加は又、銀行業に對して新たなる刺激を與へたり。紀元前第五世紀の末に及びて著しく繁多と爲れる貨幣上の取引は仲介業を必要ならしめ、銀行家(*trapezites*)の發生を見るに至れり。彼れ等はアゴラ若しくは其の他の公所に其の臺店を有し、オボロスやドラククメに代ふが如き、稱呼の高級鑄貨に對して小錢を兩替し、外國の貨幣を割引(*karaktis*)して購ひ、輸出用の金を供給し、船舶及び船貨を保證として商人に貨幣を貸出し、利子を支拂ひて預金を收受し、其の顧客の爲めに振替勘定を行ひ、又延金、寶石其の他の動産を擔保として現金を立替ふる質屋として行動せり。彼れ等の業務が規模大なりしことは、紀元前三百七十年を以つて死去せる著名なる雅典銀行家パシオン(*Platon*)の致せる鉅富によりても證明せらるゝを得可し。(Demosth., *Pro Phorm.*, pp. 945, 946.) (昭和四年版拙著「經濟學前史」二二—三頁參照)。雅典が其の同盟諸邦よりの進貢を失ひ、エーゲ沿岸地方に於ける鑄貨の獨占を喪へる時に於いても、全國は尚ほ其の銀行の力に依りて希臘の主要なる貨幣市場たることを得たり。(J. B. Bury, S. A. Cook, and F. E. Adcock, *The Cambridge Ancient History*, vol. vi, *Macedon* 401-301 B. C., 1927, pp. 70-72.)

雅典が再び其の經濟的優越を獲得しつゝありし間は、同國は又、希臘の他の部分を惱しむるに至りつゝある國內的擾亂を免るゝを得たり。(ibid., p. 72.)。ヒビダムノスに於ては、庶民によりて逐はれたる富者は陸海の盜賊と化し、蠻民と結んで其の同胞市民を悩ましめたり。(Thucydides, I. 24.)。メガラに於ては、亡命者等は過去の怨恨を忘れて國家の爲めに最良策を献す可きことを嚴肅に誓ひたるに拘らず、其の勢力を回復すると共に直ちに其

の反對者を死刑に處し、徹底せる寡頭政府を同國に建設せり。(ibid., IV. 74.)。尚ほ、ツキニデスはコルキエラ人の間に於ける紛擾其の他に就いて物語りつゝあるなり。(ibid., III. 70-85; IV. 47-8.)

斯くの如き秋に當りて、諸市邦の和解、並びに是れ等市邦内に於ける諸市民の融和を企圖する諸計畫行はれたるも、而も是れ等のものは悉く皆所謂「荒野に叫ぶ聲」に過ぎざりき。紀元前三百六十二年のマンチネアの戰以後、一般の疲勞困憊は諸市邦を驅つて平和の回復に向つて進ましめたり。最早、何れの市邦と雖も、希臘の統一を實現し得るの力を有するものなかりき。創痕最も尠なりし雅典は、其の通商に由りて同國に齎されたる繁榮を享樂するを以つて満足し、而して其の通商の爲めには同國は最早平和以外の何物をも欲求することなかりき。舊邦は其の力を消耗し去れり、獨り將來を有するものは、是れまで希臘の局外に立てる若き國々のみなりき。殊に前途の光明に輝けるものは北方の封建國家マケドニアなりき。

五

マケドニアの國土は著しく希臘の其れと相違せり。同國は三面に高山を繞せる大平原より成るものと稱せらるゝを得可し。然れども多數の小山脈は此の平原を通じて走り、其の間には海岸より遠く内地に延長しつゝある廣大なる肥沃の溪谷存せり。其の住民は農耕牧畜の民より成り、固と城壁を繞らすことなき村落に居住し、都市生活を知らざるものなりき。アエガエ及びペラの如き首都と雖も、政治的組織を有する希臘的都市に非ず。マケドニアは諸市邦の聯合に非ずして、玉國なり。然も國王は東洋型の専制君主に非ず。廣大なる所領を有して、偉大なる勢力を享

有せるマケドニアの貴族は其の土地を耕作せる小農民の支持を受けて、殆んど國王より獨立せり。殊に高部マケドニアの山地は事實上、幾分國王に歸依せるも、而も猶ほ依然として其の種族的首長を戴ける封建的諸侯國より成れり。(Thucyd., II. 99.)

紀元前四百十四年の頃、ヘルディカス(*Herdikas*)二世の子アムケラオス(*Amkelas*)が王位に即くに及び、城塞堡壘を築き、道路を貫通せしめ、兵馬を整へたり。(Thucyd., II. 100.) フィリッポス(*Philippus*)二世は貴族の騎兵隊の傍らに強大なる歩兵隊を設け、小農民をして密集隊(*phalanx*)を編制せしめ、人民の總べての階級をして永久的に大元帥としての國王に中心を置く國民軍を形成せしめたり。彼れは重なる家門の子弟を彼れの近習として宮廷及び陣營に於いて自己の周圍に集め、貴族を其の權威の下に歸服せしめ、舊封建的諸侯國をして尙ほ其の傳統を保持せしめながら、之れを行政及び募兵の爲めの地域的若しくは種族的組織に過ぎざるものたらしめ、半獨立の諸州を服従せしめて王國統一の業を完成せり。(Jardé, op. cit., pp. 326-7.)

斯くてフィリッポスは其の對内的改革によりてマケドニア國の眞建設者たると共に、又其の對外政策によりてマケドニア國をして希臘の覇者たらしめたり。希臘諸市の都市的國家はマケドニア王國の領域的國家によりて征服せられたり。フィリッポスは希臘の統一を實現し、其の子アレクサンドロス大王は世界的王國を仰望せり。

アレクサンドロスが其の亞細亞征服中に發達せしめたる政策は、彼れが其の征服に着手せる當時に於いて抱懷せる所のものとは本質的に相違せり。紀元前三百三十六年に於いては、彼れは、希臘人の先天的仇敵にして又先天的

奴隸たる「夷狄」討伐戰に於ける希臘人の總指揮官なりき。然るに三百三十年に至る迄に、彼れの態度は變じ、彼れは波斯王國を尊重し、波斯の貴族社會に心引かるゝに至れり。而して彼れは彼れが希臘人及び波斯人の君主として君臨し、而して兩者が雜婚と共同の軍務とに由りて同輩として相共に結合せしめらる可き一大帝國の建設を企圖しつゝありしなり。都市的自治の觀念より希臘的統一の其れに進めるものは、更らに希臘的統一の觀念より人類的一の其れに進まんとしつゝあるなり。(Camb. Anc. Hist., VI, op. cit., pp. 532-3.) 固より都市的制度は急速に根絶せしめらるゝには餘りに深く希臘社會に根差せりと雖も、而も此の若き英雄が希臘を夷狄の世界より分離せしめたる諸障壁を破却せる時、彼れは又希臘其の者の内に存したる總べてのものを顛覆せり。彼れの施政計畫は、全然相對立せる自治的なる希臘貿易都市と官僚政治的なる東洋王政の要素をして更らに大なる全體中に於いて相共に作用せしめんとするに在り。埃及並びに東洋に於いては、私有財産は國家に奉仕せしめられたり。生産は國有化せられ、社會化せられたり。權力は神權の支配者を中心とする軍部及び行政部に集中せられたり。一般住民は馴し易くして昏睡状態に在り、其の社會階級は固定不變ならしめられたり。農業は經濟生活を支配し、地方貴族は國王を助けて政治を行はしめ、而して猶ほ幾多の支拂は勤務及び實物を以つて行はれ、諸關係は金錢的なるよりも尊る人格的なりき。宗教及び僧侶は全堂宇に對して超自然的是認を與へたり。他方に於いて選舉制度を基礎とせる自治は典型的なる希臘市邦に於いて一般に行はれたり。私企業は實際上拘束を受くることなく、私有財産は經濟生活の基本原理たり。貨幣經濟はよく確立せられて日常事と爲り、諸關係は非人格的基礎に歸せしめられたり。奴隸すらも

多くは貨幣を以つて支拂はれたり。(Melvin M. Knight, *Economic History of Europe*, 1926, p. 45.)

アレクサンドロスは實に斯くの如く隔絶せる希臘世界と東洋世界との融合を企圖せり。彼れ及び其の後繼者の支配の下に於いて、希臘の理想は東洋との接觸に由りて或る程度まで墮落せしめられたり。然れどもアレクサンドロスは、彼れが無窮の軍事的帝國を創設せんと努力するに當つて、富と力の泉源として商業の重要性を知覺せるが如し。波斯帝國の貴金屬の蓄積は流通裡に致されて新たなる刺激を通商に與へたり。希臘の都市共同體を典型とせる多數の新都市は埃及より印度に亘りて建設せられたり。クセノフォンに従へば、波斯王は農業の技術と戦争の其れとを以つて、最も尊敬す可く且つ必要なる業務の中に存するものと信じ、而して是れ等の兩者に最大なる注意を拂へり。(Economics, iv. 4.) 既にイソクラテスは亞細亞に都市を建設す可きことをフィリッポスに勸告せるが、テュロス、ロドス及び其の他の商業都市の實力を知悉せるアレクサンドロスは同様な貿易の中心を構成するの重要な所以を充分に認めたり。洵にアレクサンドロスは史上に於ける最大の都市建設者にして、七十の都市を創設せりと稱られ、其の中、凡そ二十五は確實に知られたり。建設の目的は固より同一様に非ずして、多數は軍隊の屯營及び堡壘を築かれたる陣地なりしも、而も彼れがアレクサンドリア建設の爲めに選べる位置が驚く可く商業に適せることは争ふ可らざる所なり。而してエウフラテス河口に商業市場を建設せんとするの計畫は、アレクサンドロスが商業上の便宜を利用し得たることを示すものなり。都市建設の點に於いては、彼れの後繼者は全力を擧げて彼れの遺策を遂行せり。初期に於ける農村の沈滞不振は其の工業及び商業都市との結合により、又貨幣の増加を通じ

て除去せられたり。市邦其の者は又、更らに大なる帝國的單位に對する關係によりて微妙なる變化を受けたり。既に著しく商工業化せられたる西部亞細亞の沿海は、埃及の如き農業國に比し變化を受くること少なかりき。アレクサンドロスが亞刺比亞の周航及びカスピオン海探檢の企圖の爲めに組織せる遠征隊は、少くとも半ば貿易開始の目的を有したるものと見るを得可し。新設若しくは改造せられたる諸都市に於いては、營業區域と住宅區域とを分つて普通とせり。初めて衛生に對する注意は拂はれたり。資本及び労働は水道、燈臺及び船渠の如き實際的なる公事に投入せられたり。運河によりて黒海とカスピオン海とを結ぶの計畫は立てられたり。アレクサンドロスは軍事的帝國の資源が單に周到なる農業のみならず、又商工業を鼓舞するに由りて取得し得ることを知悉せり。(W. Cunningham, *An Essay on Western Civilization in its economic aspects*, *Ancient Times*, 1902, pp. 126-7.)

六

アレクサンドロスは其の幣政改革によりて波斯の十分算的貨幣制度とフィリッポス二世の十二分算的貨幣制度とを調和せしめんとせり。

波斯の貨幣制度が法律的に復本位なりし確實なる證據は存せざるが如しと雖も(A. R. Burns, *Money and Monetary Policy in Early Times*, 1927, p. 141)、然も金一ダルレイコス(*δαρκεῖος*)が銀二十シグロイ(*σίγλος*)若しくは(*αυκός*)と看做されたることは蓋し疑ひなきが如し。マケドニアのフィリッポスはパンガエオン(*Πανγαῖος*)若しくは(*Ἰδρυαός*)山脈に於ける新鑛坑の採掘開始の後、幾許ならずして、マケドニアの取れる銀單本位の方針を廢棄

し、金は通貨として使用せらるゝに至り、久しからずして主たる鑄貨資料たるに至れり。此の新鑄貨は獨り自國を統一するに貢献せるのみならず、又、雅典及び波斯の兩國——即ち是れ迄最も廣く希臘世界に其の貨幣を流通せしめたる兩國に對抗して其の經濟的地位を強大ならしむるに資せり。フィリッポスは彼れの新貨幣制度の基礎的單位として金一百三十三乃至三十五氏より成る一スタテル (*stater*) 及び銀五十六氏より成る一ドラクメ (*drachm*) を選べり。アッチカの本位たる二十四銀ドラクメに相當せる所なるが、彼れはアッチカの本位たる一金スタテルをフェニキアの本位たる二十四銀ドラクメに相當せしめたり。彼れが金銀の兩者に對して採用せる單位は、既に紀元前第四世紀の前半に於いてカルキディケ聯盟の諸市によつて使用せられたる所なり。彼れは未開の人民を開發するが爲めに、自由に亞細亞及び希臘世界、別して雅典の文化を輸入せりと雖も、而も彼れは雅典が將來に於いて彼れの最も大なる障害たる可きことを豫知し、カルキディケ聯盟が特に急速に増加しつゝある貴重なるマケドニアの貿易に取りて雅典の苦き競争者たりしが故に、彼れは故らにカルキディケの單位を採用して之れに好意を表せりとの解釋を爲す者すら存せり。(A. B. West, *The Early Diplomacy of Philip. II of Macedon* illustrated by his Coins—Numismatic Chronicle, 1923, 200.)

然れども、斯くの如き幣制改革の背後に存したる動機は恐らく單純なるものに非ずして、金銀の相對的價値の變化も亦、其の一たりしなる可し。即ち波斯の幣制に於いては、鑄貨中に於ける金は銀に比し十三、三分の一の價値を有したるも、雅典に於いては、紀元前第五世紀の終りに於いて、金は銀に比し僅かに十二倍の價値を有したる

に過ぎず。而して紀元前三百五十六年に採掘を開始せられたる前記フィリッピに於ける新鑛坑の所産は、單に其の價値を一層低下せしめたるに過ぎず。一に對する十三、三分の一の比率に基礎を置ける復本位的制度は最早存続するを得ずして、銀は波斯帝國の諸部分に於いて流通場裡より消滅せり。他方に於いて金一に對する銀十二の比價に基ける雅典の幣制が復本位的のものに非ざることは殆んど疑問の餘地なき所にして、金銀兩貴金屬の鑄貨は同一重量單位を以つて鑄造せられ、而して市場の狀況は同一重量の金銀貨の間に十二分算的價値を設置せるなり。若しフィリッポスが雅典の制度に倣ひ、一百三十三氏の單位を以つて金銀兩貨を鑄造せりとせば、金が當時に於いては銀に比し僅かに十倍の價値を有するに過ぎずと推定する時は、金の一單位は銀の十單位を價せしなる可し。斯くの如き金銀鑄貨間の十分算的關係は又、亞細亞的慣行中にも存したるなる可し。然も、斯くの如き事實存し、且つフィリッポスが進んで雅典に學ばんとせること頗る大なりしに拘らず、彼れが斯制度を採用せざりしは、恐らく雅典に於ける其の存在の短かきことが斯制度の採用を不利ならしめたるか、若しくは、斯くの如き制度が銀に對する金の價値下落を餘りに明瞭ならしむるかに由るものなる可し。彼れの創めたる制度は、金が銀に比し十倍の價値あるものと推定し、銀貨二十四に相當する金貨一を基礎とするものなり。金銀鑄貨間の價値關係は其の雅典に存したると同様なるが故に、金の價値に於ける變化は幾分隱蔽せられたるなる可し。然れども銀の單位は六十六氏より五十六、四分の一氏に減少せしめられ、而して雅典の梟の圖様を有する貨幣の重量よりの分離は頗る明瞭なる可きことを想像せらるゝを得可し。果して然りしや否やは、人々が鑄貨量目の變化を多く注目するか、若しくは他に對して價

値に於いて等しきもの、數に於ける變化を多く注意するかの孰れかに依存するものなり。(Burns, op. cit., pp. 328-9.)

フィリップの採れる貨幣制度が眞に復本位的なりしや、換言すれば、スタテル金貨は法律上ドラクマ銀貨二十四に相當するものと看做されたるや否やは定かならず。然れどもパンガエオンの鑛坑よりする持續的金の流出に當面して、爾後通貨の不安定なりし事實は恐らく比價の法定せられたることを暗示するものあるなり。斯くて此の點に於いてフィリップスの貨幣制度は恐らく亞細亞的傳統に従ひ、雅典の其れを排斥せるものと云ふ可し。(Ibid., p. 330.) 然るに其の子アレクサンドロスは銀單本位に復歸し、アッチカの本位を採用し、ドラクマを八十六氏より六十五氏に減少せしめ、之れをシグロイよりも輕量ならしめたるも、而も亞細亞に於いて久しく行はれたる比價たる二十銀ドラクマを一スタテルに等しからしめたり。斯くて彼れは雅典の鑄貨制度と對抗するを廢し、實際上同國をして商業上の協同者たらしめたり。斯くの如き改革は又金銀の市場比價が約一に對する十なりしに由るものならん。斯くてフィリップスによりて確立せられたる兩金屬鑄貨間の十二分算的價值關係は廢止せられて、アレクサンドロスは之れを十分算的關係に復歸せしめたるなり。他方に於いて依然としてフィリップスの鑛坑は多量金を供給しつゝあるのみならず、前述の如く波斯王大リオスの蓄積せる財寶が流通するに至つて、金はフィリップスの基礎的比率以下に下降せるが故に、アレクサンドロスは波斯の金貨をして通貨の資格を失はしめ、而してダルレイコスをして地金に過ぎざるものたらしめたり。或ひは曰く、彼れの採用せるものは恐らく二種の金屬鑄貨の間に法定比

價を設けずして、唯だ其の市價に従ひて變動せる比率を以つて流通せしむる平行本位制なりしなる可し。(Ibid., p. 331.) 彼れが復本位の採用によつて其の金貨をして人爲的高價を維持せしめんとすることなく、全然同一なる量目原位に従つて金銀兩貨を發行したる顯著なる事實は、金貨が彼れの財政顧問によりて單に地金として看做され、而してフィリップスが行へるが如く、一スタテルと交換せらる可き銀ドラクマの數を確然決定せんとする何等の企圖も行はれざりしことを立證するものなり。(Barclay V. Head, Journal of Institute of Bankers, I, 183.) アレクサンドロスの貨幣制度が少くとも嚴格なる復本位に非ざりしことを信ず可き更らに有力なる理由は、彼れの死後一世紀以上に亘りて、——其の間に於いて金銀の相對價值は頻繁にして且つ大なる變動を見たるに拘らず——何れの金屬鑄貨の重量にも何等の變化なくして、彼れの後繼者等によりて其の發行を持續せられたるの事實に於いて看出さる可きものなり。(Burns, op. cit., p. 131.)

七

アレクサンドロス死後の希臘世界に於ける主たる政治的勢力は所謂ヘレニズム(正確に言へばヘレニシズム)的諸王國に存なり。是れ等の諸王國は、マケドニアを除きては、何れも曾つて波斯古王國の一部を形成せるものなり。是れ等のものは總べて、マケドニアに生れて、希臘的教養を受け、而してマケドニア人若しくは希臘人か又は希臘化せられたる所謂「野蠻人」の何れかより成る傭兵隊に依頼する諸王によりて支配せられたり。而して亞細亞及び埃及に於ける諸王國は又、其の領土内に吸引せられて、此處に有福なる市民及び多數の役人を包含する最高階

級の人民を形成するに至れる希臘移民の多數によりて支持せられたり。是れ等東方の新諸王朝は其の國土の自然的富と土着民及び移民の勞働を更らに廣く更らに組織的に使用して、其の地位の安固を確保し得たり。這個自然的資源の整然たる搾取は収入を増加し、斯くて又、之れをして國王の爲めに大なる陸海軍を維持するを得せしめ、國王は是れに由りて國內に於ける其の臣民を統御することを得たり。爰に於いて乎、是れ等の諸王は特に其の注意を國家の資源開發と其の臣民の課税し得可き能力の發達とに拂へり。(M. Rostovtzeff, A History of the Ancient World, vol. I, The Orient and Greece, trans. by J. D. Duff, 1926, p. 364.)

希臘諸市邦によりて創造せられたる經濟狀態はヘレニズム的諸王國によりて繼承せられたり。ヘレニズム的世界は希臘及び希臘化せられたる商人及び希臘製造業者によりて支配せらるゝ一大市場と爲れり。希臘製造業者は東方に特有なる總べての技術的生産方法を採用して、之れを改良し、其の商品をして彼れ等の顧客の趣味に適合せしめたり。商人は東方に於ける企業生活の發達を知悉するに至り、之れに参加し、而して之れを更らに一層精巧ならしめたり。普遍的文明語たる希臘語は漸次東方に於いても亦、業務遂行上の正規語と爲れり。總べての生活上の部門、殊に事業上に於いては、地方的特異性は次第に消滅しつゝあるなり。(Ibid., p. 370.)

舊希臘都市の發達、新希臘都市の建設、是れ等諸都市に於ける商工業の進歩、傭兵隊、戰艦及び商船の乗組員、並びに政府の有司の増加は生活資料の生産に直接参加せずして、單に之れを消費しつゝある者の數を増加せしめたり。斯くて食料、特に麴麩、鹽魚、乾酪、葡萄酒、植物油を諸都市に供給するの問題は愈々益々緊切と爲れり。紀元前

第五、四世紀に於いては雅典は南部露西亞及びトラキアより食糧を輸入して其の帝國の臣民を養ひ、而して大多數の他の希臘人は伊太利亞及びシキリアより輸入せらるゝ食料品を以つて生活することを得たるも、而も斯くの如きは最早可能ならざるに至れり。紀元前第三世紀、殊に其の後半に於いては、南露の草原に於けるスキュチア(Σκυθία)王國は、近隣の人民、殊にサルマチア(Sarmatia)人の爲めに力壓せられて、其の生産力を減じ、而して、ケルトの掠奪民の侵入を受けたるバルカン半島北部の状態も亦、多く之れと異なることなかりき。而して又、戰役と鬭争とを以つて満たされたる多難の時代を経て、終に羅馬の至上權の下に統一せられたる伊太利亞及びシキリアは、臆がて羅馬カルタゴ間の長き戰爭に累せられて、西方の經濟生活は暫時損傷せられ、食料及び原料の輸出は殆んど全く斷絶せり。斯くて希臘の世界は其の食糧の供給を愈々益々埃及及び小亞細亞に俟つに至れり。(Ibid., pp. 370-1.)

這般の情勢は埃及及び小亞細亞の諸王並びにシキリアのヒエロン(Ήρων)二世をして其の國土の生産力増加に大なる注意を拂ふに至らしめ、希臘の植物學と動物學とは農業及び牧畜に實施せられ、希臘の科學は實際的農民及び牧畜業者の觀察を蒐集し、之れを結合して體系を與へ、土地の經營を科學的基礎の上に置かんとせる最初の企圖を行へり。原始的耕作法は、奴隸勞働が主要なる役割を演ずる資本主義的制度に代れり。同一の經過は工業に於いても亦認めらるゝを得可く、此の方面に於いても、諸王は模範を示し、奴隸勞働と大工場とは愈々益々獨立の工匠と家内工業とを壓搾せり。諸王は廣大なる地所を其の寵伴の間に分配せり。是れ等の者は地主に非ずして、是れ等の土地の上に科學的耕作法を誘入するの義務を帯びつゝある借地人なり。國家に屬しつゝある土地の廣大なる面積は兵

士の手に移され、是れ等の者は埃及に於いては外來土地保有者の新階級を形成し、小亞細亞及びシユリアに於いては、新たな都市的植民地を創設せり。兵士以外の移住民も亦、土地の資源を開發するが爲めに夥しく吸引せられたり。小亞細亞及びシユリアに於ける廣大なる地域は希臘よりの移住者に分配せられ、而して新たな希臘都市は是れ等の地域に發生せり。埃及に於いては移住民は國王を助けて最も満足なる方法の上に其の國土の政治と其の内部的交易とを組織せしめたり。是れ等の移住者は彼れ等の贏ち得たる貨幣を主として土地に投下せり。斯くて都鄙到る處に貧富の兩者を包含する新中層階級は發生せり。此の階級は多くの場合に於いて外來者より成り、土着の民は概して彼れ等に服事し、又、經濟的に彼れ等に依頼せり。邈遠の古より土地を耕作し來りたる土着の民は、國王と國王が其の土地の一部を與へたる者の爲めに依然として其の耕作を續けたり。土着民搾取の組織は埃及に於いて最も徹底的に支持せられたり。此の國のあらゆる經濟生活は政府の統制の上に置かれたり。政府と労働大衆との間の仲介人は實に官吏及び徵稅請負人なりしなり。(Ibid., pp. 373-5.)

物納の制度は實際上金納の制度に變じたり。實物徵收を避くることを得ざる農業地方に於いてすら、政府の收税人は産物を貨幣に代らしむることを得たり。希臘の租稅請負は私企業なりしが、ヘレニズム時代、後期アレクサンドライア時代には租稅が貨幣を以つて支拂はるゝ場合には、それは國家の官吏たる收税人に由りて徵收せられたり。而して租稅請負人は農民を驅つて貨幣を以つて支拂を行はしむることなくして、能く貨幣收入の徵收を容易ならしむるが爲めに介入するなり。彼れ等は絶えず收益を正金に換へつゝあるも、一ヶ月一回收入決算を行ひ、而して約定

期間の終りに於いて總決算を行ひ、其の財産を保證として提供せり。葡萄園の收益に對する六分一の租稅は實物を以つて、果樹園及び菜園の其れは貨幣を以つて支拂はれたり。アポモイラ(*Ἀπομοίρα*)是れなり。果樹園の所有者は自ら其の收穫の價值を査定し、租稅請負人にして同意せば、這般の高は領收せらるゝも、若し、彼れ等が是れよりも高く收穫を評價するとせば、彼れ等は之れを差押へて賣却するを得可く、而して農民が自ら其の收穫を評價せる全額を彼れに支拂ひたる後、尙ほ餘剩あらば、彼れ等は之れを保留するを得可し。他方に於いて、彼れ等にして收穫の價值を過大に見積れりとせば、彼れ等は自己の囊中より租稅の全部若しくは一部を支拂はざるを得ざりしなる可し。(B. P. Grenfell and J. P. Mahaffy, *The Revenue Laws of Ptolemy Philadelphos*, 1896, pp. 84, 88, 101.) アポモイラは固と神殿に屬したるも、紀元前二百六十六―五五年、プトレマイオス(*Πτολεμαῖος*)二世は之れを、神格に上されたる其の姉にして又后たりシアルシノエ・フィラデルフォス(*Ἄρσινόη Φιλαδέλφου*)の祭祀に向せしめたり。そは恐らく此の收入が國庫に歸するに至りたることを物語るものなる可し。此のアポモイラに加へてプトレマイオス「同胞愛」王(*Φιλadelphos*)は三年間の平均に基き、葡萄園、果樹園及び菜園の産物に對して三割三分五厘の租稅を徵せるが故に、葡萄酒年産額の大部分は彼れの有に屬せり。而して實物を以つて交付せられたる葡萄酒は直ちに財務吏を経て交易に移されたり。優良なる希臘産葡萄酒に對する三割三分五厘の輸入税は當に此の租稅に對應するものなり。(W. W. Tarn, *Hellenistic Civilisation*, 1927, pp. 153-4.)

油は王室の獨占にして、其の生産及び販賣は周到なる注意を以つて管理せられたり。橄欖は埃及に誘入せられて

後久しきを経たるも、稀少にして、單に果實として使用せられ、油は胡麻、^{はっ}巴豆、亞麻仁、紅藍及び^{はっ}胡蘆科植物の果肉^{コロシント}古魯聖篤より取得せられたり。國王は幾許の土地を製油原料たる植物の植附に充つ可きかを毎年決定せり。植附は強制的にして、國王は全産物を確定の價格を以つて買取り、製油は國有工場に於いて行はれ、勞作者は隸民なるが故に、仕事を強制せられ、而して官命によりて他に移さるゝに非ざれば、自己の場所に束縛せられたり。最後に油は確定的價格を以つて小賣人を通じて分配せらるゝなり。同時に、製油工場に於ける勞作者は賣價の約四分に相當する利潤の配分を收受せり。競争を防止するが爲めに外國油に對して苛重なる輸入税は賦課せられたり。紀元前二百五十九年に、プトレマエオス二世は其の油を埃及に於て一メトラーテス (*metretres*) 五十二ドラクマエに賣却し、而して輸入税は五割にして、輸入せられたる油は彼れ自身に對し四十六ドラクマエを以つて販賣せらる可きものと做せり。斯くてプトレマエオスの擧げ得たる利潤は胡麻油の七割より古魯聖篤の三十割に及べり。(Ibid., pp. 151-3.) 鹽及び天然曹達の場合に於いても、油と同様の原則適用せられたるが如し。(Cambridge Ancient History, Vol. VII, The Hellenistic Monarchies and the Rise of Rome, 1928, p. 135.)

織物原料は又、王室の獨占にして、總べての亞麻、而して恐らくは總べての羊毛も亦、確定せられたる價格を以つて國王に賣却せられざるを得ざりしなる可く、彼れは毎年亞麻の播種高を決定し、外國の羊毛に對しては二割の輸入税を賦課せり。織匠等は其の村に居住せるが如きも、織機は國有化せらるゝことなく、彼れ等は實際上勞作を強制せられざるも、自己の場所を去ることは自由ならず、而して國家は交付せられたる原料に比例して彼れ等より

亞麻布若しくは羅紗の一定量を取立てたるなる可し。織物原料は紀元二百年の頃に至り、絶對の獨占たらざるに至り、製造の權利は貸出さるゝに至れり。(Ibid., p. 151.)

八

プトレマエオス諸王は一方に於いては、ファラオの後繼者にして、斯くて又人身を具せる神、神の子として、他方には征服の權利によつて埃及を領有する者として、其の全土と其の包含する總べての物を所有せり。總べての穀物耕作地は其の何人の手中に存するを問はず、悉く直接國王に對して穀物を以つて租税を支拂はざるを得ず。而して王領地 (*royal land*) に於いては農民がより大なる取分たる國王の分前を取除き、而して之れを其の村に於ける國王の穀倉に運搬せる後に非ざれば、收穫の如何なる部分も農民に屬するものに非ず。シユリアに於いては、セレウコス (*Seleukos*) 王朝は收穫の十分一を納むるの慣行を持續し、斯くて又凶年に於いては損失を分擔して農民と協同者の地位に立ちたるが、埃及に於いては土地のあらゆる部分は其の割當てられたる高を第一の賦課として國王に納付し、損失は獨り耕作者の負擔に歸せり。斯くの如きは實にプトレマエオスの擁したる鉅富の泉源の一たりしものなり。王領の農民 (*Basilikoi yeupoi*) は生活を支へ得るに足る以上を殘さるゝことなく、國王は翌年の種穀を供給せり。小麥は村の穀倉より州の中央穀倉に移り、是れよりネイロス河を下りて、アレクサンドリアに於ける國王の穀倉に貯藏せらるゝなり。プトレマエオスは古今未曾有の大穀物商人なりき。(Ibid., p. 151.)

プトレマエオス諸王の賢明なる統治の下に於いて、アレクサンドリアは臈がて商業都市として著大なる發達を遂

ぐるに至れり。地中海岸に於ける工業及び商業都市の興隆は遂に埃及を化して商業國たらしめたり。穀物貿易は整然たる組織を有するに至り、載貨は獨りアッチカのみならず、伊太利亞に於いて消費せらるゝが爲めにカンパニアの海港都市ブテオリに送付せられたり。隊商交易の一部はネイロス河を下るに至り、印度及び亞刺比亞の物産はアレクサンドリアに輸致せられ、地中海に沿へる諸地方より來れる銀、葡萄酒、琥珀及び織物類と交換せらるゝを得しなり。(Cunningham, op. cit., p. 133.)

僅々數十囊を積載し得たるに過ぎざるフェルッカ(Falca, Felucca)と稱せられたる小帆船は、往々一萬アルタバイ(dardis)の重荷を積める堂々たるダハビヤ(dahabiya, dahabiyeh)と變れり。是れ等の船舶の一部は國王若しくは王妃に屬し、他の部分は私人に屬せり。パピリスなる人はネイロス河上に總噸數八萬アルタバイの船舶を所有せりと傳へらる。埃及に於いて *hishahes* と稱せられたる船主は自ら載貨を取扱ふことなく、其の船舶を、埃及に於いては運送業者を意味するナウクレロス(*Naucraris*)に賃貸するものなり。主たる顧客は國家にして、主たる業務は穀物の取扱なり。(Glotz, op. cit., pp. 369-370.) 道路はベレニケ及びミュオス・ホルモスよりコプトスに至るまで砂漠を横切りて建造せられたり、而して又亞刺比亞の海賊を紅海より一掃せんとするの舉は行はれたり。(Cunningham, op. cit., p. 133.)

埃及はプロレマエオスの所有地なり、之れが興味は吾人をして徹底せる國有制度を研究せしめ、而して帝政羅馬の官僚政治の原型を供給すること多きの事實に存す。然れども生産及び交換の國有と結紮せられたる人民の全生活の

細目に互れる煩瑣なる統制の制度が次第に嚴重と爲りつゝあることは、人民に取りて極めて大なる重荷にして、強烈なる不満を喚起せざるを得ず。而して官吏の非行と專恣なる行爲とは埃及民に取りて堪へ難きものと爲れり。不斷の暴動は將來を不確定ならしめたり。國家は上層階級に對して壓迫を加へざるを得ざることゝ爲り、極端に遂行せられたる國有制度の授福は遂に疑問視せられざるを得ざるに至れり。

九

希臘の都市的國家が或ひは完全に、或ひは部分的に猶ほ其の自由を維持せる希臘本土、諸島及び小亞細亞に於いては、經濟生活は別個の方向を取れり。是れ等の市邦は其の世界的貿易の配分、波斯征服後市場に投ぜられたる巨額の金銀、農業の改良及び工業の進歩等の諸原因に由りて著しく其の繁榮の程度を進めたり。總べて是れ等の諸都市に於いて、又ヘレニズム的諸王國の諸都市に於いて、強大富裕なる中層階級は發生して、絶えず其の數と富とを増加せり。他方に於いて、田園及び仕事場に於いて使傭せらるゝ奴隸數の増加並びに貴金屬價值の下落、一般物價の騰貴は下層階級の運命をして愈々益々悲惨ならしめたり。凡そ紀元前三百年に於ける貨幣價值の下落は之れに準じて物價の昂騰を來し、小麥は約二倍と爲り、油は三倍半、普通の葡萄酒は二倍半に騰貴せり。紀元前第四世紀に於いては二十ドラクマ以下なりしデロスに於ける平均の家賃は同じく紀元前第二世紀には一百ドラクマと爲れるも、(斯くの如きは、此の地に於いては地方的過度の人口群集に由るものもあるも)、然も到る處に於いて食糧の價格は紀元前二百五十年までには(恐らく同一二百年に至るも尙ほ)デモステネス時代の水準に復歸することなかりき。是

れに對してデロスに於ける賃銀は事實デモステネス時代の雅典に比して下落せり。斯くの如きは恐らく緩和せられざる競争の結果なりしならん。小麦が五ドラクマ（一ドラクマは二オボリに等し）なりし際に、純然たる最少限の生存費、即ち無能力者に對する下附金の率及び奴隷の率は一人に對し毎年一日二オボリ、一家族に對し二ドラクマ、即ち六オボリなりしが、今やデロスに於いては、小麦が殆んど十ドラクマ（一ドラクマは二オボリに等し）に垂んたる間に於いてすら熟練ある工匠は最良毎年一日四オボリ、不熟練のものは二オボリ若しくは其の以下を得たるに過ぎず。即ち奴隷によりて代らしめられ得る不熟練の自由労働は奴隷の率以上に昇ることを得ず、又往々其の以下に降ることすらありしなり。(Tarn, op. cit., pp. 102-3)。埃及に於いて工匠は一日二乃至三オボリ、労働者は紀元前二百五十四年に重き仕事に對しては一オボリ、輕き仕事に對しては其の以下を取得せるに過ぎざりしも、麵麩も亦、低廉なりしなり。(Ibid., p. 158)。

資本家は、奴隷労働が其の同胞自由市民の其れに比して更らに低廉にして更らに不斷なるが爲めに、之れを使傭すること愈々多きに至り、斯くて自由民の一部は或ひはヘレニズム的諸王の軍隊に加はり、或ひは東方に移住せるも、而も多數は後に残りて、紀元前第四世紀に比し、貧富兩階級間の罅隙は一層廣大と爲れり。斯くの如きはヘレニズムに於ける最も不健全なる現象にして、固より是れに由りて醸生せられたる社會不安存したるも、而も未だ何等の労働組織存することなく、賃銀の増加、労働條件の改善を目的とする同盟罷業は殆んど不可能なりき。紀元前第三世紀若しくは其の後の埃及に起りたる多數の同盟罷業は恐らく一定の事故によりて惡化せられたる純然たる絶望の所産なりしなる可し。彼れ等の對抗手段は主として逃走にして、一定の寺院に避難するを例とせり。(Ibid., p.

158)。パロス嶋に於ける麵麩焼人は賃銀不拂の爲めに同盟罷業を行へるも、而も一市場長官は法と協定とに従つて労働者をして罷業を廢止し、其の業務を仕上ぐることを強制し、而して傭主をして法律上の手續を経ることなくして勞作者に其の賃銀を支拂はしめたり。(Glotz, op. cit., p. 361)。職業組合が形成せらるゝに至りつゝありし紀元第二世紀に於いて羅馬領亞細亞に於ける同盟罷業を見るに至るまでは、吾人は何等他の同盟罷業の記録を有することなし。而して労働條件改善を目的とせる同盟罷業に關する最初の記録は紀元第五世紀の其れなりとす。(Tarn, op. cit., p. 103)。

事情が全然堪へ得ざるに至りたる時、訴へらる可き唯一の手段は蜂起若しくは革命なり。土地の分割、債務の解除は猶ほ庶民黨の喊聲なりき。雅典がペロポネソス戰役後其の憲法中に挿入せる、如何なる市民と雖も土地の分割若しくは債務の抹消を提案するを得ざる旨を規定せる條項は今や幾多市邦の憲法中に現れたり。既に紀元前第四世紀に於いて屢々襲來せる社會革命の恐怖は、實に當時に於ける有産階級が、現存制度の闘士としてマケドニアに依頼するに至れる一原因なり。彼れ等の多數に取りては、マケドニアは久しく法と秩序の自然的藩屏たるの觀ありしなり。フリッポスによつて構成せられ、次いでアレクサンドロス、「都市攻圍者」デメトリオス一世 (Δημιτριος Πολιορκητης) 及び其の子アンチオノス・ゴナタス (Αντιγονος Γονατας) によつて更新せられたるコリントス聯盟は其の目的に於いて半ば政治的にして、半ば社會的なるものなり。而して其の主たる對象の一は社會革命を抑止するに在り。即ちアレクサンドロスとコリントス聯盟諸市との間の條約中には、マケドニア及び聯盟は、あらゆる聯

盟都市に於ける、債務の廢止、土地の均分、人民により、又人民の爲めの動産沒收、若しくは革命を援助す可き奴隸の解放を目的とするあらゆる運動を抑壓す可きことを規定せられたり。而してデメトリオスによりて復活せしめられたる紀元前三百〇三年の全希臘聯盟の憲法は同様の規定を包含せり。然れどもコリントス聯盟は終に其の目的を達成することなくして終り、アカエア聯盟及びエトリア聯盟も亦、嚴然、財産權擁護の原則を掲げたるに拘らず、遂に失敗に歸せり。社會革命は其處此處に勃發して、著々希臘本土並びに諸島の繁榮を覆しつゝありしなり。而してヘレニズムの諸王は根本的に此の希臘生活の癌腫を治療するの力を有せざりしなり。(Rostovtzeff, op. cit., p. 376.)

恐らくクイオス島に於ける奴隸の蜂起を除きては、記録に存する紀元前三世紀に於ける最初の貧民の叛亂はアポロドロロス (Apolodrosos) なる者によつて操縦せられたる紀元前二百七十九年に於けるマケドニアの最も繁榮なる都市カサンドレイアの其れなる可し。アポロドロスは自ら僭主と爲り、富者を劫掠し、其の黨與に彼れ等の財産を分與せり。而して保護を求めてカサンドレアの町に逃れつゝありし埃及王プロトマエオス一世の後エウリュディケ (Eurydike) の傭兵隊は亂民と結び、彼の女は衛城を陥れ、「釋放者」として崇めらるゝに至れり。アポロドロスは、彼れがアンチゴノス・ゴナタスによりて平げらるゝまで、偉大なる勢力を振ひ、其の不徳と惡魔的恐怖とに關する凄慘たる記述を残せり。次いで諸島に於いて四つの騷擾起り、其の一は確かに貧富間の軋轢より生じたるものなりしが、諸王は之れを公然の叛亂たらしむることなくして鎮定するを得たり。然れども紀元前三世紀に於

ける最大なる革命と見る可きものは終に共產主義的國家と看做されたるスパルタに於いて勃發することゝ爲れり。(Tarn, op. cit., p. 105.)

十

ペロポネソス戰役後に於けるスパルタの優越は同國並びに其の多數個人に富を齎せり。是れが爲めに單純素朴なるリュウウルゴスの制度(「前史」二二六―八頁参照)は廢れて、奢侈は次第に此の國を侵せり。之れに加へて戰役は此の國の支配階級たるスパルチアータエ (Spartiates) の數を減少せしめ、レウクトラの敗北に次げるメッセニアの喪失は其の多數を凋落せしめ、土地は少數家族に歸屬するに至り、舊きスパルチアータエの數は七百以上を殘すことなく、而して其の中、相續財産を土地に有するものは凡そ一百を數ふるに過ぎざるに至れり。爾餘の者は恒産なく恒心なく、戰爭に際して其の國を守るの赤誠なく氣力なく、國內に在つては常に現状打破の機會を窺ひつゝあるものなり。(Ploutarch, Agis, v.)

紀元前二百四十四年を以つて位に即ける若き國王アギス (Agis) 四世はリュウウルゴスの制度を再び確立せんことを期し、總べての債務を抹消し、土地を沒收して、之れを新たに一萬九千五百の等一部分に分割し、其の四千五百をスパルチアータエの間に、一千五百を兵役年齢のペリオエキイの間に分配し、而してペリオエキイ、又は自由民の家に生れ、高等の教育を受け、而して適當なる個人的資格を有する外來民にすら市民權を擴張して、スパルチアータエの數を補充せんことを期せり。(ibid., viii.) 而も彼れの計畫は終に失敗に歸し、其の反對者は、彼れ

と王位を分てるレオニダス (*Leonidas*) 二世に率ゐられて、彼れを死刑に處せり。(Pausan. ii. 9; iii. 6.) (Cf. M. Beer, *Allgemeine Geschichte des Sozialismus und der sozialen Kämpfe*, 1924, S. 44-47.)

二百四十年に於けるアギス處刑の後、十三年、レオニダス二世の子にしてアギスのクレオメネス (*Kleomenes*) 三世は再び改革を實施せんことを企圖し、ゼノーン及びクレアンテース (「前史」三〇二頁参照) の學徒たるストア哲學者スパエロス (*Speusippos*) に助けられて、兵力を以つて改革を斷行し、彼れと等しく、率先して自己の相續産を共同の基本中に投じたり。(Plutarch, *Kleomenes*, x.) 斯くて後、彼れは新生せしめられたるスパルタを統率してペロポネソス半嶋及び全希臘に臨まんとせり。アギス及びクレオメネスの兩者は何れも土地に羈束せられて之れと不可分の關係に立てる其の耕作者ヘロータエ (「前史」一九四、二二六―七頁参照) の問題に觸ることなく、偏へにリュウゴルゴスの古法制を復興し、あらゆる個人的利益をして能く全市民團體の其れに従屬せしめんとせるも、而も其の市民團體なるものは依然として多數の隷屬民を擧取して、共產主義的生活を送れる少數團體に過ぎざりき。然れども希臘社會は彼れを以つて無産階級的革命の綱領を實施しつゝあるものと看做し、而して彼れが擔がてアカエア聯盟と戦端を開くや、各市の貧民は彼れに味方せり。キュナエタ市に於いては革命は遂行せられ、土地は分割せられたり。然れども、結局、現存社會組織を維持し、スパルタを中心とする希臘の統一を防止するが爲めに、同聯盟の有産支配階級は絶望の極、マケドニアに援を求め、紀元前二百二十二年、アンチゴノス・ドーン (*Antigonos Doterus*) はセルアシアにクレオメネスを破りて、スパルタを降し、之れを舊狀に復せしめたり。(Plutarch, *op. cit.*, xxx.) (Cf. Beer, *a. a. O.*, S. 47-9.)

革命はナビス (*Nabiz*) の指導の下に紀元前二百〇七年再びスパルタに勃發せり。ナビスは前掲革命的綱領の四點を悉く實行せり。而して彼れも亦、斷じてヘロータエ問題を根本的に處理することなかりしと雖も、而も多數のヘロータエを解放せり。彼れは凡そ能ふ限りの暴虐を行ひ、あらゆる有産者は不斷の誅求を受け、而して彼れ等に於て若し彼れの強慾を満足することなかりしとせば、彼れ等は最も殘忍なる拷問に掛けられたりと傳へらる。斯くの如き手段に據り、又、神殿の劫掠に由りて得たる貨幣は、彼れをして最も無恥無頼なる兇漢中より選ばれたる其の強大なる傭兵隊を編成するを得せしめたりと云ふ。洵にナビスは富者を掠奪せるも、而も彼れを以つて言はしむれば、そは偏へに國家の爲めに行はれたるものなり。恐らく國家は今や共同の食事の爲めに支拂ふに至りたるなる可く、多數のヘロータエが釋放せられたりとせば、斯くの如き支出は蓋し避け難き所なりしなる可し。彼れの遂行せる革命は再びスパルタをして著しく強大ならしめ、彼れは又クレータとの同盟によりて海軍力を取得せり。彼れは獨り其の敵手によつてのみ吾人に傳へらるゝ所なるが、而も彼れは彼れ等によりて描かれたるが如く、爾く殘忍なる人物には非ざりしなる可し。彼れに如何に大なる非行ありしとするも、而も彼れが多數階級の間の大なる人望を有したることは疑ひなき所なり。然れども當時既に羅馬は希臘に於いて其の權威を主張するに至り、敢てスパルタの革命に干渉することなかりしも、希臘に於ける富裕階級は爾後彼れ等の鬪士として同國を歓迎せんとするの概を示せり。ナビスが暗殺せられて後、アカエア聯盟は獨りスパルタの社會改革的計畫のみならず、又、其の一般政治的地位を

ペリクレス時代以後に於ける希臘の社會不安

1110 (1511)

も滅絶せしめたり。(Livy, xxv. 12-35; Pausan., vii. 50)。

アトリアの將軍ネロポス(Nerops)は、紀元前二百〇四年、アトリアの憲法改正に着手し、債務を抹削せんとせるも、富者の反對の爲めに敗れ、アレクサンドリアに亡命せり。父祖の親羅馬政策を繼承せるベルガモン王エウメネス(Eumenes)は羅馬の富裕なる味方を虐殺するが爲めにテッサリアの債務者を利用せんとせるものとしてマケドニア最後の王ペルセウス(Perseus)を元老院に告訴せり。(Tacit., op. cit., p. 106)。

紀元前第三世紀の初めに於いて顯著なる進歩を遂げたる希臘は、半ば經濟生活の中心が東方に移れるが爲めに、半ば各市邦内に於ける社會的紛擾の結果として、此の世紀の終末及び次世紀に於いては次第に活氣を失ひ、衰弱の度を加へつゝありしなり。而して斯くの如き社會的擾亂より免れ得たるものは獨り雅典ありしのみ。而も彼れ等の帝國は空しく昔日の夢と化して、今や羅馬の世界的帝國化は着々として其の歩を進めんとしつゝあるなり。

新マーカンチリズム

——佛蘭西資本主義起源考——

下田博

中世末期、近世初期の最大現象は、人格上の隷従關係及び支配關係に基礎を置く土地所有の権力と、貨幣の非人格的権力との對立に在る。「領主なき土地はなく」(Nulle terre sans seigneur)、「金錢に主人なし」(L'argent n'a pas de maître)。佛蘭西に於ける此の二つの諺は、即ち、彼上の對立を明瞭に表現して餘蘊なし。(1)併し乍ら、土地財産に倚據せる封建領主の勢力と、貨幣財産に依頼する新興市民の勢力との對立、鬭争及び後者に依る前者の破壊は、各國に於いて必ずしも同様に行はれたとは云ひ難い。少くとも、英佛兩國を採つて觀るに、吾々は其處に可成の差違を發見するのである。

(1) カール・マルクス、資本論、高島素之譯、第一卷第一册、第一一七頁、註一參照。

所謂「市民的封建制度」(Feodalité bourgeoise)が「貴族的封建制度」(Feodalité noble)の傍に確立せられ、(2)次第に後者に取つて替はり、而して其の經濟生活の法的規制者として廣大な地域の上に建設せられたる大國家——集